

【基本目標1 まちの魅力を向上させ、新たなひとの流れをつくる】

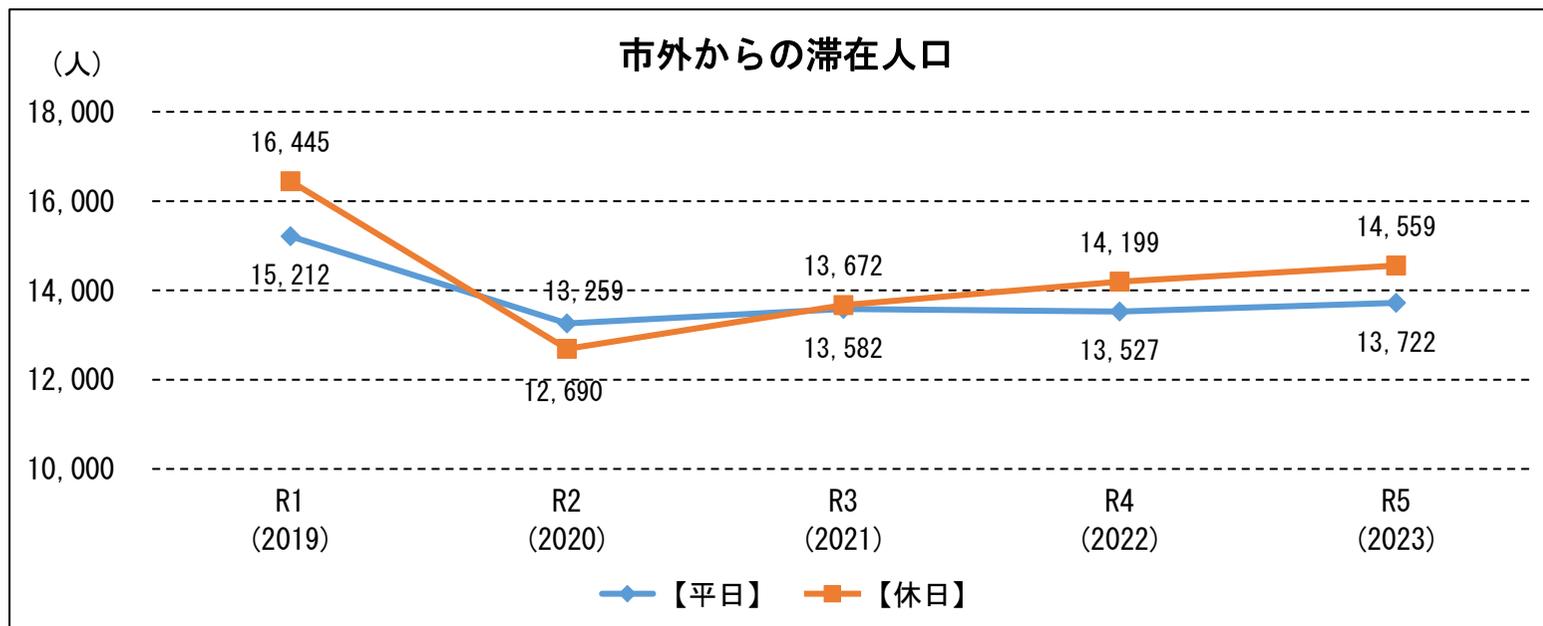
1 数値目標

指標	評価	R5
		現況値
市外からの平日の滞在人口	△	13,722 人
		16,660 人
市外からの休日の滞在人口	△	14,559 人
		16,951 人

【指標の評価について】

- ◎：目標値達成（目標値以上）
- ：現況値超目標値未満
- △：現況値以下
- ：数値が判明していない等

※ 現況値：平成30年度



## 2 具体的施策（7施策25事業）

施策	評価					計
	重要業績指標 (K P I)	主要要因 (C S F)				
		◎	○	△	—	
戦略的な情報発信	○	0	3	1	0	4
創業を希望している市民への支援	○	0	0	2	0	2
産業の振興と雇用の促進	△	3	0	2	0	5
時代のニーズに対応する農業の創造	○	0	2	2	0	4
個性豊かな観光施策の推進	△	1	3	2	1	7
利便性の高い公共交通網の形成	△	0	1	0	0	1
にぎわいと活力ある魅力的なみち・まちづくり	◎	1	1	0	0	2
合 計	—	5	10	9	1	25

### 3 総論

#### 【総括】

- 交流人口の増加の視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「滞在人口」については、低迷していた頃からやや持ち直しつつあるが、依然として少ないままである。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

#### 【施策別】

- 「戦略的な情報発信」については、情報発信方法の工夫等により、現況値を上回った事業が多い。
- 「創業を希望している市民への支援」については、イベント開催回数の減少等により、全ての事業で現況値を下回った。
- 「産業の振興と雇用の促進」については、半数以上の事業が目標値を達成している。
- 「時代のニーズに対応する農業の創造」については、現況値を上回った事業は2事業となった。
- 「個性豊かな観光施策の推進」については、かたくりの湯の一時閉館を受け、K P Iの実績値が現況値を下回った。
- 「利便性の高い公共交通網の形成」については、K P Iの実績値が現況値を下回っているものの、昨年度の実績値を上回っており、回復傾向にある。
- 「にぎわいと活力ある魅力的なみち・まちづくり」については、全ての事業で現況値を上回っている。

#### 4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 滞在人口について、大型ショッピングモール等の施設にコロナ禍前と比較した回復状況等をヒアリングできるとより良い。
- 広報について、その情報を発信することによって、何を目的とするのかを意識することが一番大事であると思われる。
- 空き店舗活用事業について、対象を拡大し、商店街以外の空き店舗を活用して地域を活性化させられる可能性もあると感じた。
- 地域ブランド認証事業について、他の関係機関と連携して行うことで更に良いものになり、人が集まって商品を購入することにつながるなど、地域活性化につながるのではないかとと思われる。
- 市の特産品を製品にして販売するなど、農業を産業と捉えて行っていく感覚も必要かと思われる。
- かたくりの湯周辺を総合的な観光拠点にできると良い。モノレール延伸のタイミングで、そのような施設ができると一番良いと思われるため、横断的に進め、実現できると良い。
- 市では動きにくい観光施策について、観光まちづくり協会に動いてもらうことで人が集まる形になっていくのではないかとと思われる。
- 新たに就任された観光大使と連携をとって、「人を呼ぶ」という方向に武蔵村山市の魅力を発信してもらうよう強く動いてもらえると良い。
- 新たな観光大使の就任について、市民の声をしっかり考え、実現できる市だというアピールもできると思われるため、活かしていただきたい。  
また、今後の活動について、就任式等で市も市民も盛り上がっている状況のため、活動していただく場面を作っていただきたい。
- モノレールが延伸されるまでの10年間の期間に、他市から人を運ぶルートを検討した方が良い。  
モノレール延伸前にそのような移動ルートがあると、賑わいが生まれてよいと思われる。

## 【基本目標 2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える】

### 1 数値目標

指標	評価	R5
		現況値
合計特殊出生率	△	1.24 (※)
		1.55
「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることが出来るまちだと思う」人の割合	△	64%
		72.1%

#### 【指標の評価について】

◎：目標値達成（目標値以上）

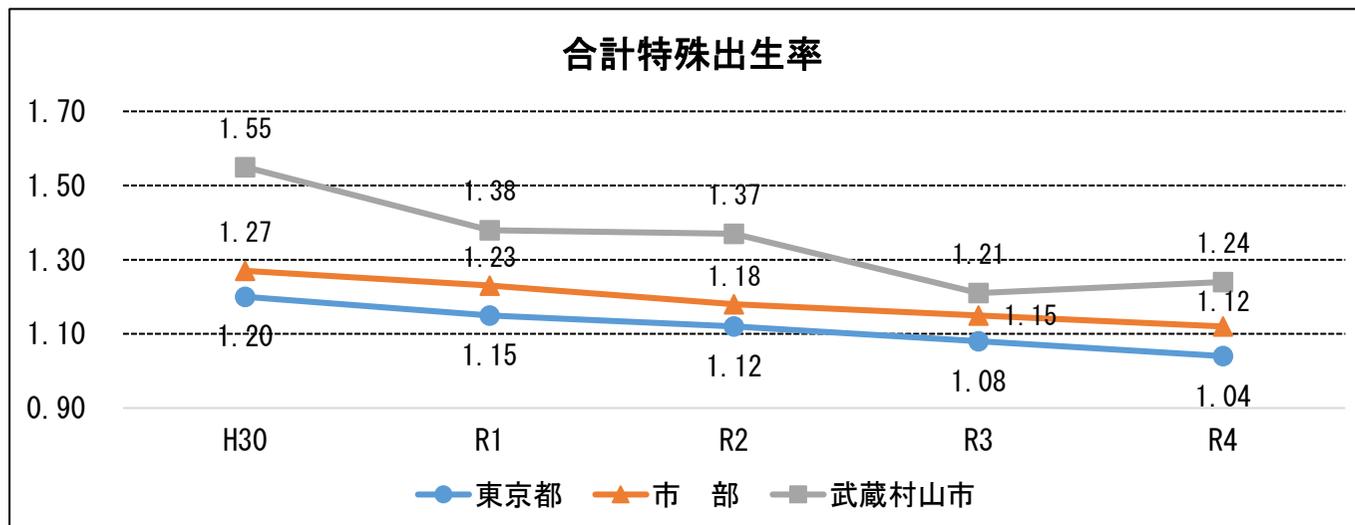
○：現況値超目標値未満

△：現況値以下

—：数値が判明していない等

※ 現況値：平成 30 年度

※ 合計特殊出生率については、例年、冬頃、区市町村別の数値が公表される。  
そのため、実績値は前年の数値である。



## 2 具体的施策（4施策20事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因 (C S F)				
		◎	○	△	—	計
結婚・妊娠・出産・子育てへの支援	◎	5	1	2	0	8
子育てしやすいまちづくり	△	2	1	3	0	6
子どもの知力・体力の向上	◎	0	0	4	0	4
教育環境の整備	△	0	0	2	0	2
合 計	—	7	2	11	0	20

### 3 総論

#### 【総括】

- 年少人口及び将来的な生産年齢人口の増加を図る視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「合計特殊出生率」については、現況値と比較すると減少しているが、49区市で4番目の数値である。(令和4年度実績)
- 数値目標に掲げる「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思ふ」については、現況値を下回っている。
- 現況値と比較すると、おおよそ半数の事業が現況値を下回っている。

#### 【施策別】

- 「結婚・妊娠・出産・子育てへの支援」については、多様な保育サービスを継続し、半数以上の事業が目標値を達成している。
- 「子育てしやすいまちづくり」については、計画策定時のアンケート調査項目であるKPI及びCSFが、現況値を下回った。その他の事業においても、新型コロナウイルス感染症の影響が尾を引き、約半数の事業が現況値を下回った。
- 「子どもの知力・体力の向上」については、KPIが目標値を達成した。  
ただし、その他事業については、全ての事業において現況値を下回った。
- 「教育環境の整備」については、全ての事業において現況値を下回った。

#### 4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 休日保育事業について、実施場所が小規模保育所であることから利用をあきらめている方もいる可能性があるため、3歳以上の子どもも対応可能であるということが市民に周知されていると良い。
- 予防接種情報システムについて、出生者数が減少しているために年間登録者数が減少しているとのことであれば、利用率等を算出して分析した方が良い。
- 健やかひろば事業について、理学コース等、素晴らしい取組であるため、多くの市民に周知できると良い。
- 英語検定について、中学校1年生から段階的に受験することで、中学校3年生になった際に受験しやすいということもあると思われるため、前段階として中学校1、2年生から支援をしていけると良い。
- 補助金に限らず、学校と連携し、子どもが英語に興味をもち、興味を持続できるような取組について、課題として進めていけると良い。
- 子どもの学力、体力及び不登校出現率について、子どもへの支援がもう少し必要ではないかと感じたため、何らかの形で支援を強化してもらえると良い。

## 【基本目標3 誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくる】

### 1 数値目標

指標	評価	R5
		現況値
これからも本市に住み続けたいと思う人の割合	—	調査未実施
		31.1%
20歳代の転出者割合	△	13.5%
		12.6%

#### 【指標の評価について】

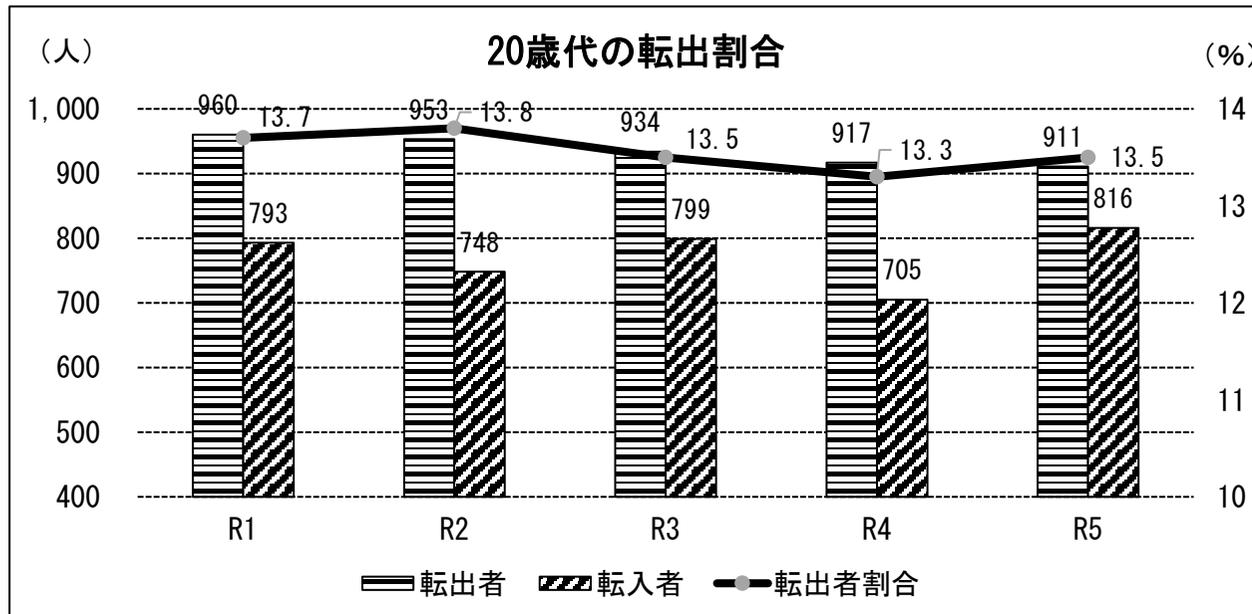
◎：目標値達成（目標値以上）

○：現況値超目標値未満

△：現況値以下

—：数値が判明していない等

※ 現況値：平成30年度



## 2 具体的施策（3施策14事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因 (C S F)				
		◎	○	△	—	計
交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり	—	1	0	1	0	2
安心して暮らせるまちづくり	◎	1	1	0	0	2
健康でいきいきと暮らせるまちづくり	—	3	4	3	0	10
合 計	—	5	5	4	0	14

### 3 総論

#### 【総括】

- 「住み続けたい」と思うまちづくりを進める視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「これからも本市に住み続けたいと思う人の割合」については、計画策定時のアンケート調査項目であり、令和5年度はアンケート調査を実施していない。
- 数値目標に掲げる「20歳代の転出者割合」については、転出者数が減少し、転入者数が増加しているものの、20歳代の人口が減少しており、転出者割合は増加、転出超過の状態が続いている。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

#### 【施策別】

- 「交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり」については、KPIが計画策定時のアンケート調査項目であり、令和5年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
- 「安心して暮らせるまちづくり」については、防災対策を計画的に行ったため、KPIの目標値を達成するとともに、全ての事業で現況値を上回った。
- 「健康でいきいきと暮らせるまちづくり」については、KPIが計画策定時のアンケート調査項目であり、令和5年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。  
なお、半数以上の事業において、現況値を上回っている。

#### 4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 防災士資格について、消防団の分団長以上の役職経験者は資格を持っていて当たり前のような状態になるよう、資格取得を推進してもらえると良い。
- 健康教室について、場所や時間も工夫してもらおうと、新規参加者が増えていくと思われるため、継続していただきたい。
- お互いさまサロン等、多世代間交流や多様な人が出会える場づくりは、国の施策としても推進されているところであるため、横断的に連携できる取組があると良い。